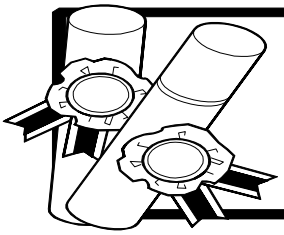
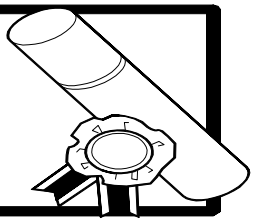


小学生の部　『銀賞』



言葉のみだれ

小六
白澤　優弥　さん
（大町教室）

「ウザイ。」「キモイ。」こうした言葉を聞くと、いやな気分になります。ぼくは今時の言葉を決して「かっこいい。」とは思いません。むしろ、「かっこ悪い。」と思います。

なぜなら、ぼくは小さいころから、母に、「正しい日本語を使える人は、かっこいい。」と言われてきたからです。「らぬき言葉」だとか、「必要以上に語尾を上げる事」は、聞いていて気分の良いものではありません。気にし始めると、本当にきりがないほど、日本語がみだれていると思います。その原因は、テレビにもあると思います。テレビに影きょうされている人も多いと思います。

しかし、ぼく一人が回りに注意したとしても、ただの変人あつかいをされて終わってしまうかもしれません。それだけ正しくない日本語が、当たり前のように使われているからです。まるで外来種の生物のように、正しい日本語の方がおびやかされていっているのです。

僕は思います。小さい子供は、英語を学ぶより、まず日本語を学ぶべきです。母国語をきちんとしゃべれないで、英語を学んでも意味がないと思います。日本語のおくゆかしさ、美しさを忘れてはいけないと思います。毎日当たり前のように使っている日本語を、もっと大切にして、将来に残していけたらいいなぁと思います。

課題（九月）

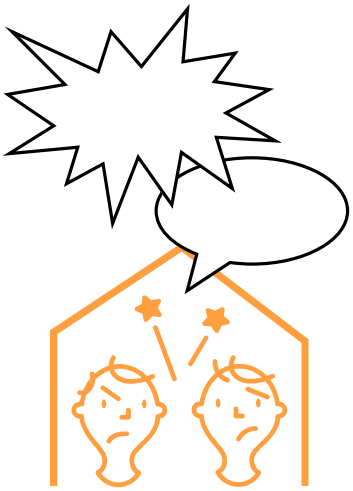
中学受験用「言葉の乱れ」

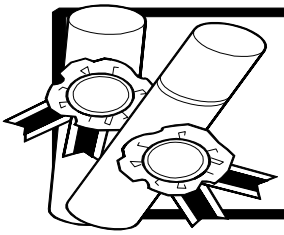
最近、言葉の使い方が乱れてきていると、言われています。あなたは、この意見に賛成ですか、反対ですか。実際にあなたが見聞きしたり、体験したりしたことにもとづき、賛成、反対の理由を明らかにして、あなたの意見を述べなさい。

添削員からのメッセージ

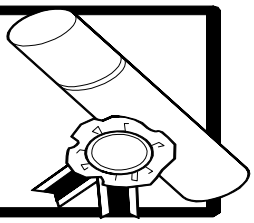
白澤くんのお母さんが、しっかり育ててくださったからでしょうか。白澤君の判だん力の正しさに、感じ入りました。今の言葉は進歩のあかしと思っている人も多いです。でも、胸がせまってくるような日本語の表現を、決して捨ててはいけないと思います。まず、日本語を学ぼうという白澤くんの主張は涙がでるくらいうれしいです。

（川口）





中学３年生の部　『金賞』



自分たちの文化

中三　Ｍ・Ｈ　さん

僕は、その国・地域固有の言語を守ることに賛成です。

理由は、言語というのは、その土地に伝統的に伝わる文化だからです。日本人なら、日本語、中国人なら中国語というように、今までは自分達の国の言語を使うことにより、「自分は日本人だ。」「自分は中国人だ。」という意識を持って生きてきました。ところが、例えば、今、最も重要視されている英語しか話せなくなるとしましょう。そうすると、「自分は何人なんだ？」と、自分が一体何者なのかさえ分からなくなると思います。自分が何者かわからなくなったら、ひょっとしてなぜ生きているのかも分からなくなるのではないでしょうか。

確かに、国際社会の中で、様々な言語が話せるということが重要なのは事実です。しかし、そのために、その土地固有の言語が失われてしまうということは、あまりにも悲しいことです。これからは、国際化を重要視すると同時に、自分たちの文化にも目を向けることが大切ではないでしょうか。

課題（十月）

「世界の言語の消滅」

もしあなたが、日本語を話す最後の一人となったら、どんなにさびしいことでしょう。日本語ならではの表現も、なつかしい昔話も失われてしまいます。でも、そんな事が実際に起きています。ユネスコによると、世界では毎年、十の言語がなくなっているそうです。カメルーンのルオ語やオレゴンのクラマス語は、もうたった一人しか話せる人がいません。その人が亡くなれば、地上からその言語は消えてしまいます。世界中の言語は約六千種ですが、そのうち半分は絶滅寸前です。日本でも、英語が重要視されています。英語優位の時代になったら、代々伝わってきた日本語を学ばなくなると思いますか？ユネスコも、固有の言語を守るよう働きかけています。

添削員からのメッセージ

課題文をしっかりと自分で納得し、消化していることが一目で分かります。題名「自分たちの文化」とつけたことから、しっかり自分自身のするべきことを見すえて読み、作文を書いていることが伝わります。中三生として、Ｍさんが社会と向き合って、常に深く考えていることも伝わっています。欲を言えば、字数の関係もありますが、Ｍさんが実際に行っていることなども書くと良いでしょう。次回、取り入れてみてください。

（亀田）